

国分寺崖線きしべの路を歩く



先月号でご紹介したガイドブックの中で特に気になっていたのが「崖」というガイドブック。国分寺崖線発見マップと題され、基本的な説明から小ネタまで国分寺崖線についての詳しい解説が掲載されています。詳細は実際に手に入れて読んでいただくのが1番なのでここでは詳しく書きませんが、是非お読みください。「へえ～ほお～」の連続です。今月はマップの中に掲載されている国分寺崖線を満喫できる2コース「おもいはせの路」と「きしべの路」から「きしべの路」を実際に歩いてみたレポートです。おすすめルートは総距離 8.7kmとありますが、寄り道しちゃうので約 10kmの行程です。足に自信の無い方は2回に分けた方が良いでしょう。でも、とにかく気持ちのいい世田谷の自然を満喫できるコースでした。



成城学園前の銀杏並木



成城学園前駅を出発し素晴らしい銀杏並木を行くと「成城五丁目猪俣庭園」があります。(財) 労務行政研究所理事長を務めた故猪俣猛氏が昭和 42 年に建てた武家屋敷風の数寄屋造りの邸宅です。回遊式の庭園の見事さもさることながら家の造りも一見の価値有り。様々な意匠が凝らされています。ほっと心が落ち着く癒しスポットです。

明治10年に多摩川に流れ着いたお不動様をお祀りする「喜多見不動堂」には神社もあります。



洞窟内にも不動明王がお祀りされていました



「神明の森みつ池」では、23 区では珍しい自生のゲンジボタルをはじめ、クワガタ・カナブン・コゲラなどのたくさんの動物やハンノキやセキシヨウなどの植物が見られます。普段は自然保護のため柵がありそばまで行けません。年数回観察会があります。実は池はちっちゃいです。



「きたみふれあい広場」は、小田急線の電車車庫の上にある人工地盤の公園。地上 10m の高さにあるため見晴らしも最高です。



崖線に建つ家屋。確かに高くなっているのがわかります。



君は誰?



昔はこんな道が多かった



咲く準備中の紫陽花



橋の道標

* いろはに乃サッチ#46「せ」* ～背に腹は代えられぬ～

「せ」は、江戸では「背に腹は代えられぬ」これは、大事なことのためには、他のことを犠牲にするのはやむを得ないというたとえ。京では「梅檀は二葉より芳し」これは、梅檀は香木であり、双葉のときから非常によい芳香を放つことから、すぐれた人物は幼少時代から他を逸したものを持っているということ。大阪は「背戸の馬も相口」これは、裏口につないでおくしかない暴れ馬でも、扱い方によってはおとなしくなること。手のつけられない者にも、頭の上がない人や気の合う友人はいることのたとえ。なるほどね～。



野川に集まる生き物たち





旧家の表門



実際に鍛冶作業！



火の見櫓



茅葺き屋根の民家



当時を再現した民家の内部



落ちると大変！肥溜めです

かつて喜多見から岡本界隈の農地を潤した六郷用水の大事業を成し遂げた小泉次大夫からその名がついた「次大夫堀公園民家園」には、昔ながらの用水や田圃が再現され当時の人々の生活様式を知ることができます。田植えや稲刈りの体験学習も行われています。



永安寺本堂。境内には樹齢数百年と言われる大銀杏があります。



「永安寺」は、足利基氏の子氏満（永安寺殿）が鎌倉大蔵谷に臨済宗永安寺として創建したものの、氏満の子持氏が上杉憲実と戦い自害、その後廃れたものを家臣の清仙上人（二階堂秀高入道）が当地に延徳2年（1490）改めて創建し、その後天台宗に改宗。



岡本公園へ続く路沿いの丸子川に咲く花。川には魚も泳ぎ自然の状態が保たれています。



「岡本公園民家園」の民家は、18世紀に建てられた旧長崎家の母屋。民家園を出ると「岡本八幡神社」の鳥居があります。



江戸川乱歩の小説の舞台になりそうな外観の「静嘉堂文庫美術館」は、旧三菱財閥の故岩崎弥之助・小弥太氏によって収集された文化財の膨大な収集館。国宝、重文が多数収蔵されています。



多摩川テラスの一角に移築された「武家屋敷門」は、旧岡山藩・池田家の筆頭家老の家のものとされています。間口22m、奥行6.8m。切妻造りで瓦ぶきのとても迫力のある門です。何度も紹介していますが、一見の価値あります。

それ行け!! アサッチ



「瀬田四丁目広場」に建つ旧小坂家住宅の内部は昭和初期の建築芸術が堪能できます。



家の内部には巨大金庫が！一体何をしまっていたのか？ 気になります。セントラルヒーティングを日本で最初に導入したのも小坂家とのこと。庭も必見です。



「砧線の跡地遊歩道」まで来るとゴールの二子玉川駅まであと少し。路面を楽しみながらゴールしてください。

